

日本学術会議地域研究委員会
地域学分科会
(第 25 期 第 4 回) 議事要旨

日時：2021 年 9 月 25 日 13:00～15:30

会場：ビデオ会議にて開催

出席者：小長谷有紀、松原宏、矢野桂司、井口梓、池口明子、岩瀬峰代、岡橋秀典、
小林知、近藤章夫、曾我亨、田原裕子、中澤高志、増田聡、水内俊雄、宮町良広、
山川充夫、山崎孝史、吉田道代、佐無田光 (いずれも名簿順、敬称略)

議事概要

1. 前回 (第 25 期第 3 回分科会) 議事録確認

田原副委員長より、第 25 期第 3 回分科会の議事録の説明があり、承認された。

2. 報告

1) 山川充夫 連携会員 (福島大学名誉教授)

「東日本大震災・原発災害とふるさと創造学/未来創造学」

山川会員より、東日本大震災後の福島において、地域と教育の連携を独自の形で推進した事例として、双葉郡のなみえ創成小・中学校とふたば未来学園 (高校) が行う「ふるさとへの誇り」をベースとした探求的学びの事例が報告された。

2) 佐無田光 特任連携会員 (金沢大学人間社会研究域教授)

「地方創生の第 2 ステージと地域学の展開可能性」

佐無田会員より、企業が地方創生に積極的に参与する今日の地域学の新しい展開として、企業による地域の演出や意味づけなどを検討する「企業の地域学」の構想と、その方法としての EBPM (証拠に基づく政策立案) に基づく学際的取り組みの事例が報告された。

3) 宮町良広 (大分大学経済学部教授)

「みらい人材育成の地域学—地域づくりの拠点としての高校、高大連携を考える—」

宮町会員より、「地域づくりの原点は人づくり」との立場から、従来の地域振興で注目が少なかった人づくり拠点としての高校の役割、および高大連携の可能性と問題点が、島根県立隠岐島前高校および大分大学の事例をもとに報告された。

3. 今後の分科会の予定について

宮町委員長より、第 5 回分科会 (令和 3 年 11 月 20 日) および令和 4 年に実施する第 6 回および第 7 回分科会での発表者案が提案され、承認された。